

寶曆十三癸未初冬浮巢庵文素。その文中に芭蕉七十回忌の記念にしたものであることが見える。

ハナフサジザエモン 嶺南治左衛門 慶長二年前田利長に仕へて二百石を領し、十五年歿。子清右衛門以後島田氏と改めた。

ハナフサチヨウ 英町 金澤の町名。龜尾記に、専光寺辻から六角堂辻までの間で、もと安江木町の地内であつたのを、近年町名改稱の際、町内に英田光濟寺あるを以て、英町の字を用ひてハナフサ町と呼ばしめたところ。この町名改稱といふのは文政四年二月に行はれたものゝことである。

ハナミ 波並 鳳至郡諸橋郷に屬する部落。能登名跡志に、『波並村。獵所にてよき村なり。此村に後藤・飯森などゝ古き百姓あり。又治郎兵衛といふ者の方に日丸の旗・瀧川の鼓とてあり。又唐傳とて骨つぎの名薬あり。獅の傳へし方といへり。』とある。

ハナミサンノウシヤ 波並山王社 鳳至郡波並にあつた。文政の社號帳に山王大明神波並村鎮座とある。明治中火宮神社に併合せられた日吉神社であらう。

ハナミツキ 花見月 鹿島郡一青庄に屬する部落。觀應二年正月得江石王丸代長野彦五郎季光の軍忠狀に『去年十一月三日觀敵井上布袋丸富木彦十郎以下、自當國宮木院打出、寄來花見楓之間、馳彼所致軍忠訖。』とある花見楓も是である。

ハナレシマ 離島 鳳至郡宇出津山分の磯に近い島。

ハニダ 埴田 ^{ダハネ} 能美郡徳橋郷に屬する部落。

ハニダノゴロベエ 埴田の五郎兵衛 ^{ハニダ} 能美郡埴田の人。承應二年二月十村を命ぜられ、明暦二年九月持高の内四反二百歩を扶持せられて、御扶持人十村に進み、三年二月廿七日更に九反を加増せられた。

ハネ 羽根 珠洲郡木郎郷に屬する部落。能登名跡志に『眞脇より羽根村へ廿六町。氏神八幡宮はよき社なり。昔は大獵場にて、はんじやうなる地也。御鹽藏・唐竹の藪等あり。』能登誌に『羽根の地蔵堂とて村中にあり。むかし此海よりあがり給ふ尊像とて三鉢なり。參詣人不絶。』とある。

ハネクビ 刎首 藩政の時、歩士並以上士分の者が盜賊を爲し、又は私曲を行つて、その刑死に當る時は、刎首に處せられることがあつた。古くは庶民の斬刑を刎首といふこともあつたが、後には前記の如く、士人にして破廉恥罪を犯した場合にのみ言はれることになつた。刎首は一に打首ともいひ、それを捕繩をかけたまゝ、行ふ時には特に縛首といふた。

ハネダ 埴田 ^{ダハネ} 埴田。

ハネバシ 跳橋 金澤城外に在つた。九月十六日附(年不詳)伯耆・關書宛前田利長の手書に『わざと申入候。仍はねばしの石がき南之丸ども出來申候云々。』といひ、金澤古蹟誌に『本堂形近藤甲斐守屋敷跡に御書院ありし頃は、御書院より北の方、御屏折目より十四五間許上の方に、長さ七八間許幅六七尺許の橋あり。大石垣の方より七尺許引上ぐるやうに致し有之。其頃車橋といふ。』とあるもの

是である。高石垣下の御花畠から猿嶺を越えて架けてあつたのであらう。後には橋がなく、その附近に車橋門の名を残した。

ハバ 羽場 石川郡湯涌郷に屬する部落。

ハバ 馬場 ^{ハバ} サンボウババ 三方馬場。能美郡栗津郷に屬する部落。

ハバ 馬場 ^{ハバ} 鳳至郡仁岸郷に屬する部落。能登名跡志に『伊藤氏の十村役あり。』と記する。

ハバ 馬庭 ^{ハバ} マニハ 馬庭。

ハバサキチヨウ 馬場崎町 金澤の町名。藩政の時横山氏邸地の横通りを馬場先と呼んだ。附近に横山氏の調馬場があつたからである。明治四年四月戸籍編成の時馬場先を改めて馬場崎町とした。

ハバシヒ 馬場椎 ^{ハバシヒ} サカキノババシヒ 酒井の馬場椎。

ハバジヨウ 馬場城 ^{ハバジヨウ} 鳳至郡馬場に在つた。越登賀三州志に、里人城山といふ。今此の邊の郷長馬場村八左衛門家の後であり、饒石石見守が居たといふが年歴は未だ考へぬと記してゐる。↓ニギシウヂ 仁岸氏。

ハハソハラシユウ 柞原集 二冊四巻。金澤の俳人句空著。發句は主として此の地方のものが多く、一二巻の歌仙もある。跋には、元祿五歲中秋日桑門句空とあつて、白山比咩神社への奉納集であるとしてある。題名は、宗祇が白山禪頂の際によんだといふ『天照す神のは、そのみやまかな』から取る。京井簡屋庄兵衛板。

ハバテ 馬場出 羽咋郡西谷内の内の小字。

ハバナカテル 馬場仲輝 通稱木工太夫 三左衛門・五郎左衛門。正徳五年父の遺知二百

石を襲ぎ、大小將に班し、寶永六年前田吉徳の御部屋附となり、享保二年大小將横目から次第に昇進し、九年二百石を加へて物頭並に任じ、十五年十月十七日四十九歳を以て歿した。

ハバノウチ 馬場内 ^{ハバノウチ} 鳳至郡仁岸郷に屬する部落。

ハバノザイケ 馬場の在家 ^{ハバノザイケ} トウノババ 塔、馬場。

ハバノシバキゴヤ 馬場の芝居小屋 慶應三年に金澤卯辰山の嶺上を平均し、商家を建築して東御影町といひ、その繁昌するに伴うて、明治元年芝居小屋を建てた。然るに幾程もなく山上の町勢が衰微したので、彼の建物を關助馬場の廢跡に移轉し、夷座と稱して興行した。之を馬場の芝居と呼び、淺野川方面に芝居小屋の建築せられた初である。

ハバマゴザエモン 馬場探左衛門 元は越前に在つて、堀丹後守直寄の家人であつたが、正保三年前田利常に召出され、二百石を賜はつた。寛文八年歿。子孫藩に世襲する。

ハバマチ 馬場町 ^{ハバマチ} 金澤の町名。藩政中は關助馬場と稱する藩士の調馬場が在つたから、附近の惣名を淺野川馬場と呼び、其の町筋がいくつも在つたので、馬場何番丁と稱した。今は一番丁より六番丁までとする。

ハバマチ 馬場町 ^{ハバマチ} 金澤石浦舊社地の下なる堅筋を古來ばんば町と呼んだ。佐久間盛政尾山在城の頃、此の地を調馬場とした所であるといふ。もと本多氏の下邸であつた頃から馬場町と呼ばれてゐたが、今は本多町一番丁となつてゐる。

ハビアン 巴比拿 ^{ハビアン} ハビアンは又ハビアン。